

第20回（平成30年度第1回）久留米市セーフコミュニティ自殺予防対策委員会
議事録（要旨）

開催日時	平成30年4月10日（火）15時00分～16時30分
会場	市庁舎3階 303会議室
出席者	内村委員、大治委員、中島委員、俣野委員、村田委員、高田委員、田中委員、川口委員、藤島委員、井上補佐（江頭委員代理） 事務局：野口、秋山、堤、山口（保健予防課）
欠席者	別府委員
次第	1 開会 2 報告事項 （1）平成30年度の主なスケジュールについて 3 協議事項 （1）平成29年度取組み実績及び平成30年度取組み方針（案）について （2）再認証取得に向けた本審査について 4 その他 5 閉会
総括事務局 委員長	【開会】 ・事務局より開会 ・傍聴者の確認「なし」 【報告事項】 ・平成30年度の主なスケジュールについて 本審査とフェスタ、式典に関して各々日程調整をお願いします。
事務局 委員長	【協議事項】 （1）平成29年度取組み実績及び平成30年度取組み方針（案）について ゲートキーパー啓発しおりはどのくらい作成したのか 1万枚作成している。5000枚は書店に配布するよう調整中。
事務局 委員長	9月の自殺予防週間等にも配るとよいのではないかと。よくできている。わかりやすく使いやすい。
事務局 委員長	出前講座での配布や、委員の皆様にも配布したいので、ご活用をお願いしたい。 総括票の成果（数値で表せないもの）とあるが、掲載されている3つは数値で表わされるのでは？ゲートキーパーの啓発回数、人数、かかりつけ医の連携も数が出ていい。それくらい広がってきているということなので、数値で表せるのでは？
委員①	相談内容の質を評価するのが数で表しにくいもの。ゲートキーパーの数だけでなく、ゲートキーパーそのものの自己認識、活躍する場面に対する意欲など、品質を表現したらより数字と質がわかりやすいのではないかと。
委員長	例えば、アンケートをとるなどしてはどうか。かかりつけ医との連携のところは、紹介した後に、受診しない人たちがどうなったか、半年後の予後調査をしております。

	紹介するだけでなく、自殺が減ったりうつが減ったりしているなどの、結果につながっている。あるいは、消防が出しているデータ、精神科既往歴だけでなく、かかりつけ医の有無、自殺未遂歴の有無も出している、消防士がこのような聞き取りをしていること自体が連携が取れているということ、これらも質として取れるのではないか。久留米市民みんなが、自殺対策を意識していることが表れている。ゲートキーパーの数だけでなく、市民団体が、冊子を作ったり研修会を繰り返し、一般市民に対してもゲートキーパーのほうから、啓発をしている。質を高めていることにつながる
委員①	講演会に対する満足度を測る。また来たい、友達を誘いたい、などの横の広がりに対するアンケートなどが可能なら、インパクトが高いと思われる。
事務局 委員長	ご意見を踏まえて、検討したい。 平成 30 年度の取組みのところで、こども子育てサポートセンターが 10 月に立ち上がっている。産褥期のうつ病、自殺が多い、子供の自殺が減っていないことの対策にもなる。かかりつけ医との連携の中で、小児科産婦人科との連携もしている。こども子育てサポートセンターとの連携が必要ではないか。
事務局 委員②	ご意見を踏まえて検討したい。 個票の「生活困窮者からの相談支援」の中で、久留米市生活自立支援センターの相談件数は全国でトップクラス。久留米市は注目されていて、研修等にも来ている。死ぬしかないという人はとても多い。実績にもっと盛り込んでほしい。
委員長 事務局	自殺を考えているひとのデータはあるか？ 申請書の中に、久留米市生活自立支援センターにおける相談者の課題のデータを掲載している。
委員①	自殺企図・念慮を訴える人は 3.4%とあるが、上位の課題の中でも「死にたい」などと言っている人はもっと多いのではないか。
委員長	より多くの声を拾い上げられるように相談記録の工夫を検討してみてもどうか。
事務局 委員長	(2) 再認証取得に向けた本審査について 本審査は 2017 年のデータまで入れるのか。2017 年に自殺者が 45 人に減ったことは掲載できるか。
事務局	2017 年の自殺者数 45 人というデータは警察庁統計で、2016 年までは人口動態統計を使用しているので、混乱を避けるために、掲載は避けたほうがよいのではないかと思われる。
委員長	市民意識調査の「普段の生活の中で不安に感じること」の「うつなどの心の病や自殺」に対する不安感が 12%ぐらい減っている。対策が進んで減ったのか、意識が低いのか、どちらを取るか。かなり数字が減っているので、対策が進んで不安感が減っていると行って良いのでは。
委員①	うつや自殺を考えたときに相談する場所が増えて、安心感を提供できているという結論に結びつけることができるのではないか。自殺を考えてもセーフティネットのある久留米市なんだ、安心感を提供する事ができたかもしれないと述べたほうが、

委員長	<p>アピールになるのではないか。</p> <p>「悩みを抱えたときに相談することにためらいを感じるか」については、働き盛り世代の男性がためらいを感じている割合が高いという結果で、自殺者数も久留米市は50代男性が、特に高い。これらのデータからも、50代男性をターゲットにいかにかに認識をかえていくかということが重要で、この課題は継続している。図書館でのこころの相談カフェの開設は効果があると思われる。図書館での相談に男性は来るのか？</p>
事務局	男性が多い
委員長	<p>心の相談カフェを開催している百貨店での研修も予定しているなら、図書館職員への研修も効果があるのではないか。行き場がない男性を対象になるので、そこで働く人にもゲートキーパーになってもらって声を掛けてもらいやすいのでは。ゲートキーパー啓発のしおりを図書館でのこころの相談カフェで配布してもよいのではないか。</p>
事務局	検討したい。
事務局	<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査について報告 ・自殺の基礎資料（～H29）報告 ・その他意見
委員③	<p>SNSで知り合った相手方が掲示板で自殺をほのめかしているなどの通報が多い。相手のことは何も分からない状態での通報。死にたいといった後に、通信が途絶えるなどの事例もあり、若い人が多いが対応が難しい。SNS上の照会など時間がかかり、難しい現状がある。</p>
委員④	<p>労政課職員はゲートキーパー研修を毎年受けている。市民意識調査の不安や悩みの原因が、仕事に関するものがトップで、若年者の仕事に関するストレスが高いという状況があることがわかった。今年度新入社員向けの合同研修会を実施し、3回の研修のあとフォローアップの企業訪問を実施。離職防止やモチベーションアップ、うつ病防止などをした。今年度も実施したい。</p>
委員長	<p>うつ・自殺対策においてストレスチェックが大きな柱になると思うが、本当に活用されているのか。ストレスはうつ・自殺に直結することなので、高ストレス者の中で、どのくらいの人が相談を受けたかの割合は重要。調査の中でも相談をためらう中高年男性が多いという実情がある。データとして使えなくても、ストレスチェックを実施していて、機能させていくことが自殺対策につながるということは言わなければいけないのではないか。</p>
委員①	<p>課題としてあげて、ストレスチェックを受けて、相談しましょうという啓発をしていくことが必要ではないか。</p>
委員長	<p>本日出た意見を取り入れて、検討してほしい。</p> <p>【閉会】</p>

